電子カルテシステムのモバイル利用実現にむけて

礒部智行[1)]、佐藤智則[1)]、美原盤[2)]

1）脳血管研究所美原記念病院　システム管理課

2）脳血管研究所美原記念病院　院長

【はじめに】当院は平成16年3月より電子カルテを導入し、以降、併設老健を含めグループ内に共通の電子カルテを導入し診療情報の電子化を進めた。しかし、訪問看護、訪問リハビリなど院外では電子カルテを利用できない不便さを指摘された。在宅医療が推進される中、在宅医療の場でも電子カルテを使用できる環境が求められる。当初、仮想化やシンクライアントを用いることを想定したが、中小規模病院においては費用対効果が得にくいと考えられた。より低価格、簡易的で、かつセキュリティも確保する方法を考える必要があった。

【方法】外部インターネット端末からVPNで院内ネットワークに接続、専用ゲートウェイ機器を通り遠隔操作用の電子カルテ端末を利用する環境を構築した。院内の電子カルテ端末を遠隔操作するため安全性が高く、費用面ではシンクライアントサーバを用意する場合の1/5程度に抑えられた。

当初は昼間の訪問看護、訪問リハビリでの運用を中心として検討したが、その時間は看護やリハビリ自体に時間を費やすため電子カルテ利用率が低い。そこでまず、夜間帯の脳神経外科オンコール医師と訪問看護夜間担当者に端末を4台用意した。

【結果】医師からは電子カルテと画像診断結果を体感的な遅延なく閲覧でき、担当患者の状態を逐一把握できると肯定的な意見が得られた。訪問看護職員からも呼び出しがあった際、患者情報をその場で確認することができると良好な感想を得られたが、携行するには端末が重いとの意見もあった。

【考察】外部から電子カルテの閲覧が可能となり、早期情報収集、対応の迅速化が促進された。超高齢社会を迎え医療が在宅にシフトしていく現在、病院と在宅医療との情報連携が必要不可欠であり、適切な地域包括ケアを構築するには、地域中核病院との診療情報連携まで視野に入れなければならないと考えられる。